

タマスダレにキンモクセイ、鍾馗蘭（黄色彼岸花）に宮城野萩、秋の花々が、時を急ぐように急に咲き乱れています。去る夏を惜しみ、短い秋を満喫したいものです。

献身者奨励日

今朝は献身者奨励日礼拝です。一般的に献身者といえば、牧師、伝道師、宣教師です。しかし実際は、教会には、教会役員、教会学校の教師、各部のリーダー、家庭集会の家長、祈祷組会の組長など、教会のリーダーとしての働きを担っている人々によって、成り立っています。成長を続ける教会は必ず、そのようなリーダーの働きが大変盛んです。その人々によって、新しい人々が教会に加わっています。

神学校に献身者が少ない、無牧の教会が増えた、教会が（信徒も牧師も）高齢化した、そんな声を聞いて久しいです。しかし、逆転の発想で見れば、それでも、神学校が存続している、教会が存在している、お年寄りが元気である、牧師がいなくても群れを導くリーダーがいる、と言い換えることも可能です。

私たち一人ひとりに、神様が呼びかける「献身」ということを、思い巡らす聖日したいと思います。そこには、必ず温かい約束があるはずです。

シャーデンフロイデとサーバント・リーダーシップ

はっきりいって、今朝の聖書の箇所は、最後の晩餐の席での弟子たちの醜態です。自分たちの師と、あと数時間で別れが迫る貴重な時間なのに、彼らはそこで「12弟子格付けランキング」を始めてしまいました。人間にはシャーデンフロイデ（害なる喜び）という心理構造があるそうです。他人の失敗を喜ぶ、成功者の凋落を面白いと思う、暗い一面です。一説には、不正をずるいと思う心理プログラムが、暴走して引き起こす感情と言われます。しかし、自信のなさや、主導権を握りたいという欲求も、この感情を助長するそうです。主イエスの弟子でも、やっぱり、ドングリの背比べに熱中していました。イエス様は、そのような弟子たちを、どのようにご覧になったのでしょうか。情けない、そんなんじゃダメだしっかりしろ、お前たちはもう弟子ではない、と言われたのでしょうか。そうではありません。

イエス様は、弟子たちに、本当の解放された者としての生き方を示されました。それが「最も偉いものが、最も仕えるものになりなさい」という教えでした。それはサーバント・リーダーシップと呼ばれる教えの源流です。

このリーダーに与えられた権威は、天の父がイエス様に与えられた支配権と同じです。そして、天国の食事の席が用意されているという恵みの約束がともなっていました。イエス様は弟子たちの存在を喜ばれました。同じように私たち一人一人をも、喜んでくださっているに違いありません。信仰に生きることを期待されています。

この方の声に耳を傾けながら、解放された最高の生涯を歩もうではありませんか。